

## 講義内容

科目名

病態科学特論 I

概要

病態の解明とともに、いくつかの疾患は、従来とは異なる、新しい捉え方で理解しようとする向きがある。これらについて学び、さらに新規治療への展望を考える。

実施日時	講義内容
平成29年 6月24日(土)	1限 主要な認知症の病態と診断（画像診断含む）、臨床研究の動向、社会医学的な問題点等について、医師の立場から講義する。
	2限 Lewy 小体の主要構成成分は、リン酸化 $\alpha$ シヌクレインである。病理学的側面から、蛋白コンフォメーション異常症について、シヌクレイノパチーを例に最近の知見を紹介する。
	3限 神経変性疾患には難治性のものが多い。一方、必須微量元素は、生体内存在量は僅かであるが、生体が有機的機能を営む上で必要不可欠である。筋萎縮性側索硬化症を例に、微量元素との関連を考えながら、治療への展望を考える。
	4限 現在、多くの疾患において概日リズムを考慮した薬物の投与が行われている。腫瘍の治療や移植などにおいても、時間薬物治療を応用した治療や処置が行われ、好成績が報告されている。時間薬物治療を用いた近年の知見を紹介し、今後の展望を考える。
平成29年 7月1日(土)	1限 認知症を理解するにあたり、記憶のメカニズムや海馬の機能について最近の知見を交えて紹介する。
	2限 神経変性疾患には有用なバイオマーカーが無いものが多い。パーキンソン病を例に、バイオマーカーとしての Lewy 小体の意義、及びそれを応用した画像診断の進歩について講義する。
	3限 アルツハイマー病について病因や治療薬を中心に講義する。
	4限 認知症に関する最近の知見（話題）を紹介する

(1時限9時00分～10時30分, 2時限10時40分～12時10分, 3時限13時00分～14時30分, 4時限14時40分～16時10分)